

都市計画道路長尾杉線整備に係る説明会（令和4年3月23日開催）の主な質疑応答

○事業計画について

【質問】

- ・長尾工区の着工はいつか。

【回答】

- ・令和4年10月から工事着手を予定している。

【質問】

- ・(杉工区)現在の工事区間について、湧き水や掘削中に岩が出てきたなどで工事が遅れたことは認識している。未着手区間は、用地買収の契約が済み、全体工事が終わるのが令和6年3月か。

【回答】

- ・未着手区間の用地買収については、現在手続中である。現在の工事区間について、単独の工事では遅れているが、杉工区全体では令和5年度内に舗装まで仕上げるという予定に変更はない。

【質問】

- ・現在の工事区間は工事完了後に開放するのか。また部分開通はするのか。

【回答】

- ・杉工区の全区間の工事が完了してからの開放となる。また、部分開通は行わない。

【質問】

- ・通行止めは全体の工事が終わるまで辛抱しないとイケないのか。

【回答】

- ・通行止めは安全確保の観点から行っている。元々、狭い道路であるため、通行人や通行車両に配慮しながら、近くで重機が作業するのは危ないという判断になった。非常にご迷惑をおかけしている中で一日でも早く完成するよう工事を進めている。
また、工事がある程度完成したタイミングで通れるようにはなるが、舗装工事の完了は令和5年度末、令和6年3月31日までを予定している。

【質問】

- ・整備年度がわかる資料はないのか。また、紙の資料はもらえないのか。

【回答】

- ・HP上に掲載している。紙の資料については必要に応じて対応する。

○事業計画について（続き）

【質問】

- ・令和6年3月に杉工区が完成するということだが、国道1号バイパスのランプ部の開通も令和6年3月になるのか。

【回答】

- ・開通に向けて国や警察といった関係機関と協議している。

【質問】

- ・長尾工区の完成の見通しは。

【回答】

- ・事業認可は令和7年3月までとなっている。現在、工事の予定を精査しながら進めている。長尾大池の工事は、工事発注に向け準備を進めており、どれくらいの期間を要するのか見直しをかけている。

事業を進めるにあたり、事業用地や財源の確保が重要であり、国から交付金を得ながら進めている。現在、枚方市内では整備中の都市計画道路が4路線あるが、国に要望した金額が全て得られている状況ではない。例えば、国からの交付金が半分になれば、それに伴い市の整備も少なくなる。

ただ、杉工区については周辺の渋滞解消に資することから、国が推し進めている国土強靱化の中で重点的に交付金を頂き、事業を進めている。長尾工区についても認可期間である令和7年3月を目標に進めているものの、財政事情が厳しく、今の段階では明確には示せない。

【質問】

- ・長尾工区の供用目標は令和7年3月でよろしいか。住宅地の部分は用地買収が絡んでくるとは思うが。

【回答】

- ・認可期間（令和7年3月）を目標に進めている。用地買収が生じるので、所有者の事情を踏まえながら進めているところである。

【質問】

- ・長尾工区が完成しないと杉の渋滞緩和に繋がらないのではないかと。

【回答】

- ・国の重点箇所、ボトルネックとして位置づけられており、それを解消する為、杉工区の整備を進めている。京都行の車両を分散することで渋滞緩和に繋げていきたい。

○事業計画について（続き）

【質問】

- ・長尾杉線から国道1号バイパス京都行に国道307号新田辺方面からは行かない。山手幹線から流入して行くだろう。杉工区は長尾方面へ抜けていく杉1丁目交差点の量を分散させるためではないのか。

【回答】

- ・そのような効果もあるが、計算結果では国道1号バイパスから京都へ行く効果もあると出ている。国から重点的に交付金を頂いている杉工区の整備を進め、開通することで少しでも効果を上げていくことが枚方市として得策だと考えている。

【質問】

- ・大規模な交通量調査の結果、何割か減らせるということで整備を進めているとは思いますが、当時と今の交通量の比較はしているのか。交通量が増えているのではないか。

【回答】

- ・当時と現在の比較は行っていない。平成42年（令和12年）の将来予測では、当時より半減するという計算結果が出ている。渋滞対策について、枚方市の役割はバイパスを整備することになっている。国、大阪府、大阪府警についても役割分担があり、コマダ珈琲の前の整備や交差点の改良などの渋滞対策を行っている。また、国は民間から交通に関するデータを入手して解析等を行っており、その結果では渋滞対策により一定の改善は見込めると報告を受けている。一方で車に乗る方が減ってきている実情もある。時間帯、シーズンによっては渋滞に差が出ることはあるが、年間を通じてみると全体としては交通量が減っている。

○交通安全対策について

【質問】

- ・全体計画は配布資料の図面で分かるが、例えば、中責谷、下責谷の所など、長尾杉線を横断する箇所はどのような形状となるのか。また、信号がつくのか。

【回答】

- ・現状の道は機能復元をする計画としており、工事後も通行できるようになる。
- ・信号設置については、地元の意見を踏まえ、信号の管理者である警察と協議を進めている。また、国道1号バイパスの管理者である国とも協議を進めている。
- ・国道1号バイパスの交差点については現時点で信号がつかない、国道307号の交差点については信号を設置する方向で調整している旨の回答を警察からもらっている。国道307号の京都側、紫峰霊園近傍の交差点に信号があり、渋滞が起きる可能性があるため、大きい方の交差点に移設する方向であるとのこと。両交差点に信号を設置した場合、設置間隔が近すぎると警察も懸念している。

○交通安全対策について（続き）

【質問】

- ・紫峰霊園近傍の交差点の信号を移設するということか。

【回答】

- ・警察からの確定した回答ではないが、移設で検討を進めているとのこと。信号については、新規設置されにくいという現状がある。警察が重視しているのは、人や車の交通量であり、一定の条件を満たしたうえで設置の可否についての協議となる。

○道路計画について

【質問】

- ・水路の位置は変わるのか。

【回答】

- ・一部暗渠（ボックスカルバート）にする箇所はあるが、出来るだけ元の位置に戻していく。

【質問】

- ・暗渠はどの程度の延長となるのか。どのあたりが暗渠となるのか。また詳細な図面は貰えないのか。

【回答】

- ・国道 307 号近傍の水路を一部横断する。そこから少し下流の箇所も暗渠化する。資料をもって改めて説明する。

【質問】

- ・国道 1 号バイパスに合流した後の本線の置き式ガードレールは撤去するのか。以前の照明工事で一時的に撤去していた際には道が広く感じた。

【回答】

- ・市の整備範囲は本線に接続する箇所までとなっている。

【質問】

- ・撤去しなければ混雑しそうだ。

【回答】

- ・意見については、国との協議の際に伝える。

○道路計画について（続き）

【質問】

- ・京都方面ランプ、大阪方面ランプの両方が開くのか。

【回答】

- ・両方が開くように協議を進めている。

【質問】

- ・家具団地方面に抜けていくところの橋を架け替えるなら長尾杉線を優先すべきでは。

【回答】

- ・そちらは大阪府の事業となる。新名神自動車道の開通に合わせて周辺道路整備として進められている。

○周辺環境への影響について

【質問】

- ・杉五兵衛の裏には蛍がたくさんいた。そういった環境対策は考えているのか。

【回答】

- ・仮設管で水を切りまわすなど、絶えず水の流れを止めず、自然を極力残せるよう工事の影響を最小限にし、環境に配慮しながら工事を進めている。

【質問】

- ・蛍ということで対策はしているのか。

【回答】

- ・薬品を使用する工事ではないので、蛍に対して特別な対策というよりは、自然環境への影響を少なくするように工事を進めている。

【質問】

- ・工事が終わったら、蛍が生息しなくなったりしないか。

【回答】

- ・現状、水路を触っていない箇所もあり、工事の影響で生息できなくなるということは想定していない。

○周辺環境への影響について（続き）

【質問】

- ・想定していないということではなく、いなくならないような対策はしてくれていないのか。杉五兵衛の裏手は工事で触っていないのか。

【回答】

- ・触っている所と触っていない所がある。触っていない箇所は現況のままである。触っている箇所は水を切りまわしながら工事を進めている。ただ、全体的に元に戻るということは確約できない。出来るだけ影響が最小限になるよう工事を進めている。

【質問】

- ・蛍の生体のことはよくわからないが、蛍をみることは楽しみにしている。工事でいなくなったらさみしいから工事で何かするのか聞いているだけである。

【回答】

- ・蛍の生態系についてはこちらも詳細はわかっていない。川の水を止めないなど、影響が少しでも最小限に抑えられるよう進めている。

【質問】

- ・国道 307 号は日によって混み具合が違う。原因はどのようなものが考えられるのか。渋滞の日々の変化の原因を知っていたら教えて欲しい。

【回答】

- ・その時々によって、状況が違うので特定の要因は分からない。また交通量の調査結果では、月や曜日ごとに違う結果が出ており、具体的な要因もわからない。